

「事前学習Ⅱ」 報告

2019/07/06



松木日向緑地プログラム 事前学習Ⅱ

7月6日（土）、地域ボランティアプログラム「松木日向緑地プログラム」の事前学習Ⅱを南大沢キャンパス91年館多目的ホールにて、実施しました。

事前学習Ⅱでは、これからの活動に向けて必要となる知識や技能を学んでいきます。

昨年に引き続き、本プログラムのアドバイザーである加藤英寿先生（本学理学部生命科学科/牧野標本館 助教）と連携団体である「ひなた緑地遊学会」代表の北出進さんに講師をご担当いただいた他、今年初めて八王子市環境部環境保全課の職員の方にもお越しいただき、「みどりの基本計画」をもとに、八王子市のみどりの現状と課題について、お話しいただきました。

さらに、オブザーバーとして、本学総務部施設課の職員の方や日頃一緒に活動を行っている「ひなた緑地遊学会」のメンバーにもご参加いただき、学生への助言等をいただきました。

・昨年度の活動について

まず初めに、本プログラムに継続して参加している2年目（サポーター）や3年目以上（リーダー）の学生が、1年目の学生に向けて、昨年度の活動について説明しました。「かつて松木日向緑地は、地域住民の生活に利用され、地域住民の手で管理されていたこと」、「都立大移転後に、自然と地域住民の交流が断たれ、里山が荒廃していったという背景があること」、「プログラムでは、“緑から緑を”という合言葉が表すように、緑地整備等の里山保全活動を通して、近隣の小中学校の子どもたちと『サル山水合戦』や『花炭・木工工作』等の多世代交流を行っていること」等の説明を写真や動画等を用いて分かりやすく話していました。

・竹林管理とひなた緑地遊学会

加藤先生からは、松木日向緑地の現状や竹林管理の取組、そこに至るまでの経緯等についてお話しいただきました。松木日向緑地には、過去に人が植えたモウソウチクやマダケが密生・拡大しているという問題があります。多様な生態系を維持し続けていくためにも、人の手で竹の管理をしていかなければなりません。

そこで、加藤先生は緑地管理の協力者募集のチラシを学外の方も通行する掲示板に掲

示しました。このチラシを見てすぐに連絡してきた人が後に「ひなた緑地遊学会」代表となる北出さんです。

北出さんからは、南大沢を含めた周辺地域の課題やひなた緑地遊学会の取組について、お話しいただきました。

特に印象的だったのは、「地域に住む子どもが減っている」といった統計から見える課題に加えて、南大沢住民という視点から、「子どもと近所の人の深いかかわりの減少」「子どもが地域で遊び、人間的な触れ合いをする機会の減少」等の統計からは見えにくい地域の実情について、お話しされていたことです。実際に南大沢に住んでおられる北出さんだからこそ感じることであり、その大半は私たちが客観的に見るだけでは気付くことができない貴重な情報でした。

「たけのこ掘り」をはじめ、ひなた緑地遊学会では、“親子で参加する”イベントを数多く行っています。それは、前述のような課題を解決しようというイベント参加を通して参加者の家庭内コミュニケーションの活性化を図るためだそうです。加藤先生や北出さんから取組の経緯や思いをお聞きし、2年目以上の学生も、改めて自分が参加している活動の意義について、深く考え、多くの気付きを得たようでした。

・八王子市のみどりの現状と課題

八王子市環境部環境保全課の職員の方からは、現在改定作業中である「八王子市みどりの基本計画」をもとにした、八王子市のみどりの現状についてのお話を聞きました。

「八王子市みどりの基本計画」は、都市緑地法第4条に定められたもので、市町村が緑地の保全や緑化の推進に関して、その将来像、目標、施策等を定める基本計画です。現在八王子市が抱える問題の一つに、「生活様式の変化により、手入れされなくなった雑木林が増加していること」があげられます。そのため、計画の基本方針の一つに、みどりの質の向上が位置付けられているそうです。

この点において、松木日向緑地プログラムが取り組んでいる里山保全活動に通ずることが非常に多くあります。プログラムの活動は松木日向緑地という限られた範囲での活動です

が、そこで取り組んでいる課題は、八王子市、東京都、日本...と大きな範囲においても共通する大きな課題であるということに改めて実感することができました。



・松木日向緑地をどんな場所にしたいか

講師の方々のお話をお聞きした後は、2年目以上のプログラムメンバーが考え、準備してきたグループワークを行いました。

初めに、「松木日向緑地が抱える問題」を考えました。さらに、その問題を踏まえて、「松木日向緑地がどのような存在であるべきか」「どのような場所にしていきたいか」等を考えていきました。学生からは、「立ち寄った人がゆっくりできる場所にしたい」「多様な動・植物が生息する場にしたい」「地域の子どもたちが開かれている場にしたい」等、今後の活動につながるアイデアや意見が出ました。



最後に、事前学習Ⅰで設定した「首都東京をどのような街にしたいか」という自身のボランティア宣言をもとに、活動に向けた具体的な目標を自ら設定し、事前学習Ⅱを終えました。

参加した学生は、様々な立場・視点でのお話を聞き、活動の背景を知ることによって、より一層活動への意欲を高めていました。